

令和4年度 事業報告

1 事業の概要

ロシアによるウクライナ侵攻はいまだ終息を向かえず、世界情勢の混乱から原材料不足等による相次ぐ物価上昇を引き起こし、家庭の財政を圧迫し高齢者の年金生活の暮らしぶりがマスメディアでも取り上げられることが度々ありました。明るいニュースが少ない中、サッカーワールドカップやワールドベースボールクラシックでは、日本人選手の活躍が度々紹介され日本の魅力を海外に発信できた年であったのではないかと思われました。

山武市シルバー人材センターは（以下、「センター」という。）、ウィズコロナの制限下の中、感染症対策を十分に行ったうえで、令和3年度にはコロナ禍のため残念ながら実施できなかった多くの事業を、会員の皆様の協力を得てコロナ前の活気を取り戻すべく事業活動を行いました。

特に、山武市の転倒骨折予防プロジェクトに基づいた健康関連の事業については、高齢者福祉課を中心に事業を進め、9月には安心安全就労サーベイ（測定会）を開催し、こちらの事業の様子は毎日新聞や公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会（以下、「全シ協」という。）発行の月刊シルバーにも掲載され、多くの皆様の目に触れるところとなりました。“明るく元気な100歳へ”と題し、生涯現役人口の増加につなげることができるモデル事業の1つとなりました。併せて、山武市社会福祉協議会や図書館との共同事業も開始し、参加者へセンター事業の紹介を行い、就業だけではないセンターの魅力発信へとつなげていくことができました。また、センター就業がいかに高齢者の健康増進を維持するのにどれほど役立てることができるかを調査するために、安心安全就労アドバイザーとして日本医科大学衛生学公衆衛生学准教授の陣内裕成先生に就任していただき、「健康になる就労」プロジェクトチームを立ち上げ、全国的にも類を見ない新たな取り組みも始めました。

事業の効率化等を目指すために、組織のデジタル化及び会員のデジタル化の推進も必要となることから、高齢者のスマホ有効利用活動の増加を目的とした総務省の掲げるデジタル活用支援推進事業の指定を受け、所定の研修を受けた会員講師によるスマホ無料講習会を、会員及び市民を対象として全25回に渡

り開催しました。これらの講習会には、会員市民併せて207人が参加し、好評のうち終了となりました。

関係機関との連携強化として、東金市の城西国際大学との連携を深め、学生へのセンター事業の紹介をおこない、学生と会員との意見交換会やスマホを利用した交流会等を開催し、双方に取って有意義な時間を過ごすことができました。こちらの様子も、前述の月刊シルバーで紹介され、全国に向け事業の紹介を行うことができました。

このように、ウィズコロナの時代ではあっても、多くの関係機関と積極的な連携を持ち、センター事業発展のため様々な事業活動を展開しました。

会員にとって何より大事な就業の場面においても、残念ながら民間事業所等についてはコロナ禍の影響を受け受注の伸び悩みは多少ありましたが、広報紙全戸配布の効果による新たな事業の受注により、今までとは違う就業内容についての就業も発生したことから、会員へ就業紹介を行うことができました。

また、安全面において残念ながら事故ゼロ達成とはなりませんでしたが、安全委員会や職群班長の働きかけにより、会員がより一層の安全面への配慮を行えたことで、対前年比の約半数に低減することができました。引き続き、事故ゼロを目指した安全就業体制への構築へとつなげていきます。

親睦交流事業としては、女性部会主催によるすみれの輪の開催や、3年ぶりの実施となった親睦旅行の再開等、多くの会員が待ち望んでいた交流事業につき感染対策を施しながら開催し、会員間交流を行うことができました。

女性会員の活躍も随所において見られ、女性理事も1名増員となり、女性会員の拡充に貢献することができました。すみれサークルで作成した物品の販売は、各種イベントが新型コロナ感染症拡大の恐れから開催されず販売機会を得ることができませんでしたが、東京都の狛江市シルバー人材センターが、狛江市シルバーでのすみれサークル物品販売の協力を得ることができたことにより売り上げ増加につなげることができました。

さらに、新たなセンター魅力発信を目的として、センターの愛称を「えるワークさんむ」とし、併せて女性会員の愛称を「しるばあママ」として、市民の皆様により親しみやすい身近なセンターとして慣れ親しんでもらえるようネーミングをしました。

このように、ウィズコロナの時代であっても私たちのセンターは歩調を緩めず、会員の皆様と共に前進を続けてきました。

そこで、この1年の事業実績を次のとおり報告します。

会 員 数 正 会 員 4 5 2 人

(男性301人・女性151人)

特別会員 1 人

賛助会員 2 団体・6 人

事 業 実 績

	受託事業	派遣事業
受注件数	2, 9 2 0 件	3 7 件
契約金額	2 億 1 千 6 百 万 円	2 千 1 百 万 円
就業延人日	3 8, 1 9 4 人 日	3, 2 8 0 人 日
就業実人員	4 4 6 人	3 2 人
就業率	9 8. 7 %	
事故報告	傷害事故 4 件	0 件
	物損事故 2 件	1 件

2 事業の報告

(1) 100万人計画に沿った会員拡大

第3次中期計画が始まり、女性会員の拡大を中心に目標を立て、女性理事の1人増員は成し遂げられましたが、女性会員比率の増加とまでとは及ばず、新規入会者促進及び退会者抑制を積極的に行ったにもかかわらず、残念ながら会員数は対前年比を下回る結果となりました。

これは、感染症拡大の恐れから市民が大勢参加する各種イベント等が開催されず、市民への普及啓発活動を行うことができなかった事と、広報紙配布事業を開始したことによる会員数の大幅な増員があったことによる反動ではないかと考えられます。

退会抑制については、プラチナ会員制度が少しずつではありますが定着してきたことで、前年比50%の増加となりました。また、反対に体調不良によりプラチナ会員へと移行した会員が、元気になり再び就業が行える正会員へと復帰したケースもあり、プラチナ会員制度の有効な利用が見られました。

主な事業活動につき、次のとおり報告します。

- ・千葉県シルバー人材センター連合会（以下、「千シ連」という。）事業による、新聞折込チラシでの会員勧誘活動を行いました。
- ・4月と3月に新規会員募集のチラシを市内全戸に配布しました。
- ・社会福祉協議会主催のいきいきわくわく教室とはなまるサロンに、共催として参加し、来場者にチラシの配布等を行いました。
- ・さんむウインターフェスティバルに出店し、すみれサークルの物品販売やチラシの配布等を行いました。
- ・就業開拓員による公共施設等へのポスター貼付やチラシの設置等を行いました。
- ・会員へのプラチナ会員制度や家族会員割引制度の周知を行い、退会抑制や新規入会者の獲得へとつなげました。
- ・一般市民も参加できる、すみれの輪やきらきらシルバークフェア等で、参加者に対しチラシの配布等を行いセンター事業の紹介を行いました。

【会員状況報告】

	成東	山武	松尾	蓮沼	合計
入会	24	28	6	1	59
退会	24	28	7	6	65
会員数	183	164	78	27	452

【入会説明会参加者報告】 81人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
参加者	20人	12人	5人	1人	2人	5人
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者	2人	6人	1人	2人	11人	14人

【プラチナ会員】 21人 (男性12人 女性9人)

【家族会員】 21人

(2) 安全就業対策の強化

安全委員会を中心として、安全だよりを利用しその時期に見合った安全対策の周知や、地域班長会議や職群班長会議にも安全委員が参加し安全対策の呼びかけや、役職員による不定期の安全就業確認パトロールも行い、事故件数が最大となった前年を下回ることができました。

しかしながら、草刈機による飛び石事故は2件発生し、引き続きの安全対策の呼びかけが重要課題となりました。そこで、第2回の職群班長会議と草刈植木合同安全講習会へは安全委員も参加し、安全への呼びかけを行うと共に、安全就業について意見交換を行いました。

主な事業活動につき、次のとおり報告します。

- ・就業前安全確認と就業前ミーティングの徹底を呼びかけました。
- ・安全だよりを複数回発行し、安全に関しての必要な情報を伝えました。
- ・きらきらシルバーフェア開催時に安全コーナーを設置し、会員だけではなく市民も含めた来場者にも、センターの安全就業についての取組みや安全対策について紹介を行いました。

- ・前年度に引き続き、草刈及び植木就業者を対象とした合同の安全講習会を開催し、安全就業の大切さや安全委員会での取組み等につき説明を行い、また、草刈・植木の境を無くし安全対策についてのグループ協議を行い、更なる安全活動に役立ててもらえるよう開催しました。
- ・減少しない物損事故に対する（仮称）ペナルティー制度について、安全委員会で検討を行いました。
- ・身体の痛みが及ぼす就業への負担の調査を行いました。
- ・「適正就業ガイドライン」の内容について、新規入会者や新規発注者及び既存発注者に対して随時説明を行い、適正就業への理解を進めるよう努めました。

【講習会等】

初心者向け実技草刈講習会の開催
草刈植木合同安全講習会の開催



【安全だより】

4月、7月、10月、1月に発行

【事故報告】

請負就業	傷害事故	物損事故
事故件数	4件	2件

派遣就業	傷害事故	物損事故
事故件数	0件	1件

【職群班活動】

植木班（2地区6班）、草刈班（3地区7班）、軽作業班（15班）
班員のとりまとめ及び安全管理、発注者・事務局との連絡調整等

【派遣就業報告】 37件

就業内容	受注件数	就業内容	受注件数
運転業務（人・物運搬）	8件	病弱者サービス	3件
草刈・植木・運転業務	6件	屋外軽作業	1件
工場内作業	6件	室内清掃	2件
厨房手伝い	4件	高齢者サービス	3件
農作業	2件	屋外清掃	2件

(3) 生涯現役の実践 ～明るく元気な100歳へ～

人生100年時代が広く提唱されている中、センターも時代に併せた事業を執り行っていく必要がある中、コロナ禍であっても感染対策を施しながら各種事業を実施しました。

会員の活躍できる場を増やすために、関係機関との連携強化を図り、新たな事業にも着手し、センター活動の周知等を会員自らでも行いました。また、就業面においては、新規の事業も始めセンター事業の拡大を行うことができました。

その1つとして、会員の生涯現役感向上のために、山武市社会福祉協議会と図書館との連携事業も開始し、就業だけではない分野においても会員が明るく楽しく過ごせるよう各種事業を行いました。

独自事業分野においても、就業を離れた場面で会員が親睦交流を目的に、女性会員を中心とした「すみれサークル」活動と、さつまいもと黒豆の耕作を行った「いきいきクラブ」活動を、コロナ禍であっても感染対策を施しながら行いました。特に、いきいきクラブでは会員協力による農地の変更を行い収穫が心配されましたが、今まで以上の豊作となり多くの方に購入をしてもらうことができました。

会員が長く就業するには、健康面が何より重要になることから、人生100年時代を見据えた会員自身による健康自己管理を促すことを目的とした「健康になる就労」プロジェクトを、センターの安心安全就労アドバイザーの陣内裕成先生にご協力を仰ぎチームを立ち上げました。

主な事業活動につき、次のとおり報告します。

- ・生涯現役人口の増加を目的とした市の転倒骨折予防プロジェクトに参画し、関係機関との連携強化を図り、センターが地域社会に貢献することを

目的として各種事業を行いました。

・いきいきわくわく教室及びはなまるサロンを、山武市社会福祉協議会と図書館との連携で事業を行い、参加者の視力測定や握力検査等の実施、すみれサークルの物品販売を行い、会員だけではない交流を深めることができました。

・「健康になる就労」プロジェクトは、1月からズームを使用した会議を行い、事業の開始に向け打合せを行いました。

・ボランティア活動は4地区で時期を分けて行い、会員同士が協力しながら日ごろお世話になっている公共施設等の清掃活動を中心に行いました。

ボランティア活動を通し、普段は顔を併せない会員同士が、交流を行うことができました。

・会員交流の活性化として、室内で行える「ボッチャ」を定期的で開催し市民も交えて競技を行いました。2月には、6チームに別れて試合を行い、優勝を目指し楽しく競い合うことができました。

・作品展示会も、感染症対策を施しながら開催し、就業以外の会員の趣味等につき紹介することができました。

・宿泊旅行も3年ぶりに行い、あいにくの天気となりましたが、バス1台に乗り合わせた34人は、楽しい2日間を過ごすことができました。

・会員及び市民の皆様が親しんでもらえるよう、「えるワークさんむ」を、センターの愛称とし、愛着を持ってもらえるよう周知活動を始めました。

えるワークさんむ

える→Elder（年長者の意味）

お小遣いをえる、仲間をえる

ワーク→仕事をする、活動する

さんむ→山武市

・女性会員が明るく元気に活躍してもらえるよう、女性会員のはつらつとした様子を象徴し「しるばあママ」と女性会員の名称を考えました。

しるばあママ



【ボランティア活動報告】

	山武地区	成東地区	蓮沼地区	松尾地区
月 日	6月10日	9月27日	10月20日	3月8日
会 場	山武福祉作業所、 睦岡作業所、 山武福祉センター	しらはたこども園	蓮沼交流センター	松尾 IT 保健福祉 センター・ 松尾駅下
内 容	植木草刈草取清掃	草刈草取	草刈草取	草刈草取
参加者	42人	23人	11人	14人

【すみれの輪】

	月 日	会 場	内 容	参加者
第1回	5月20日	松尾 IT 保健福祉センター	認知症予防	23人
第2回	10月12日	松尾 IT 保健福祉センター	リースの作成	18人
第3回	11月11日	松尾 IT 保健福祉センター	終活セミナー	18人
第4回	1月18日	松尾 IT 保健福祉センター	料理教室「ねぎカレー」	24人
第5回	3月3日	蓮沼交流センター	料理教室「いちご大福」	21人

【地域班活動】

成東（3地区9班）、山武（1地区6班）、松尾蓮沼（2地区6班）
配布物7回お届け、ボランティア活動及び次年度更新説明会協力

【独自事業活動報告】

	すみれサークル	いきいきクラブ
就業実人員	12人	23人
就業人日	184人日	98人日
収入実績	237,017円	201,850円
活動内容	ふくろうストラップ、布 草履、ふきん、毛糸の帽 子等作成と販売	サツマイモと黒豆の栽培 及び収穫と販売

【介護予防・日常生活支援総合事業】 受注実績 1件

支援が必要な高齢者に対し、ヘルパー資格のある会員が家事援助の支援を実施しました。

【子育て支援事業】 多胎妊産婦サポーター 受注実績 1件

市が実施する多胎妊産婦サポーター研修を受講した会員が、子育て支援を必要とする家庭に対し、家事援助サービスを行うことで、若い世代が安心して子育てが行えるようサポートしました。

(4) 利用者サービスの向上

センター利用の発注者は、事業所から家庭までと多種多様であり、また個人家庭発注者も若年層から高年齢層までと多岐にわたっています。発注者がセンターに求めるものも様々ではありますが、利用者のニーズに併せたサービス展開が行えるよう事業を進めました。

主な事業活動につき、次のとおり報告します。

- ・コンビニで料金の支払いができるらくらくコンビニサービスも2年目となり、多くの人の利用があり発注者の利便性の向上に役立てることができました。
- ・ホームページの更新を定期的実施し、情報発信を行いました。
- ・就業内容映像化については、まだ途中段階ではありますが、引き続き会員の就業の様子撮影を行い映像化に努めます。

(5) 関係機関との連携強化

センター事業を遂行するにあたって、関係機関との連携は不可欠であることから、会長を中心に積極的にアプローチを行い関係機関との連携強化に努めました。

主な事業活動につき、次のとおり報告します。

- ・定期的に、会長を中心として市長訪問や市担当部署を訪問し、センター事業への理解を深めてもらえるよう活動を行いました。
- ・会長は、千シ連の理事として千シ連で開催される理事会に参加し、必要な情報を収集し、円滑な事業運営に役立てることができました。

併せて、千シ連の普及啓発委員長への就任や就業開拓委員会の委員と

して複数回会議に参加し、千シ連との情報共有に努めました。

・センター活動が、SDGs に即した活動であることから、4月5日に第2号となるパートナー宣言を山武市から受けました。

・事務局長は、全国シルバー人材センター事業協会（以下、「全シ協」という。）のシルボンヌ全国大会 2022IN 愛知の実行委員として複数回会議に参加し、女性会員の拡大につき知識を深めることができました。12月の開催には、すみれサークル担当職員も参加し、全国の女性会員活躍の様子等につき学ぶことができました。

・事務局長は、全シ協主催の全国新任事務局長研修にて、当センターの活動等につき事例発表を行いました。

・事務局長は、全国女性代表者会議に参加し、女性会員や女性役職員の活動の様子につき意見交換を行いました。

・事務局長は、転倒骨折予防プロジェクトに関わる高齢者福祉課職員を中心とした関係者の zoom 会議に参加し、情報の共有等を行いました。

・社会福祉協議会と図書館との共同事業では、関係者による複数回の打合せ等を行い、スムーズな新規事業への着手を行うことができました。

・東金市の城西国際大学とは、高齢者の働き方と高齢者のスマホについて、大学ゼミ生とセンター会員とが交流を行い、大学を通して若い世代にセンター事業について紹介する場を持つことができました。

・すみれサークルの物品販売を、東京都の狛江市シルバー人材センターが、月に2回狛江市シルバーでの販売を行ってもらうことができ、売り上げに貢献してもらうことができました。

・経理主任は、来るべきインボイス制度の開始に向けて千シ連の研修会等に参加し、情報収集に努めました。

【就業開拓員活動報告】

就業開拓員	1名	就業日数	108日
-------	----	------	------



さんむ
SDGs



シルボンヌロゴマーク

(6) 組織体制の整備

組織を運営するにあたり必要な情報の収集を積極的に行い、センター運営を遅滞なく行えるよう、理事会を毎月開催し必要な事項について協議を行いました。

主な事業活動につき、次のとおり報告します。

- ・会長及び副会長出席で、月末に職員全体会議を行い、就業や活動についての情報共有を行い、事業運営が円滑に行われるよう努めました。
- ・監事2人は、毎月就業報告書の確認を行い、会員の就業ぶりや発注の様子について確認を行いました。
- ・監事同席のもと、理事会を毎月開催し、新規入会者の承認だけでなく、組織運営に必要な安全委員会や新規事業開拓委員会の報告を受け、その内容についての情報共有を行うと共に意見交換をし、組織の活性化に努めました。
- ・広報紙の配布状況等については、適宜関係者での打合せ等を行い、就業が速やかに行えるよう管理員を中心に整備を進めました。
- ・会員には、事務局の必要な情報を伝える「事務局だより」だけでなく、理事会の様子を知らせる「理事会だより」を新たに発行しました。
- ・総務省のデジタル活用支援推進事業を受託し、高齢者のスマホ利活用についての講習会を6人の会員講師により、3会場で延25回開催し、会員だけではなく高齢市民に同世代の講師が教えることで、参加しやすく親しみやすい講習会を開催することができました。
- ・職員間の情報共有として、毎朝始業時に朝礼を始めました。